

## 新温泉町部活動のあり方検討委員会報告書

令和6年2月



## はじめに

- 学校部活動は、スポーツ・文化芸術に興味・関心のある同好の生徒が自主的・自発的に参加し、各部活動の責任者（部活動顧問）の指導の下、学校教育の一環として行われ、教師の献身的な支えによりスポーツ・文化芸術振興の役割も担ってきました。
- また、体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図り、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、学校という環境における生徒の自主的で多様な学びの場として、教育的意義を有してきました。
- しかし、少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっており、存続が厳しい状況にあります。また、専門性や意思に関わらず教師が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、学校の働き方改革が進む中、より一層厳しくなります。
- 生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動を実現するためには、学校と地域との連携・協働により、学校部活動のあり方に関し速やかに改革に取り組み、生徒や保護者の負担に十分配慮しつつ、持続可能な活動環境を整備する必要があります。
- 国は、令和4年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定しました。
- 本ガイドラインは、少子化の中でも将来にわたり、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保することをめざし、学校部活動が生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境となるよう、適正な運営や効率的・効果的な活動のあり方について示しています。また、新たな地域クラブ活動への対応について国として考え方を示したものであり、本町もこのガイドラインを参考にしながら、今後の部活動のあり方を検討してきました。
- 学校部活動の今後のあり方を検討することは、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」ということにつながります。生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境の一体的な整備により、本町のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、生徒の健やかな成長につながることを期待します。

令和6年2月

新温泉町部活動のあり方検討委員会  
委員長 田中 千尋

## I 新温泉町の現状と課題

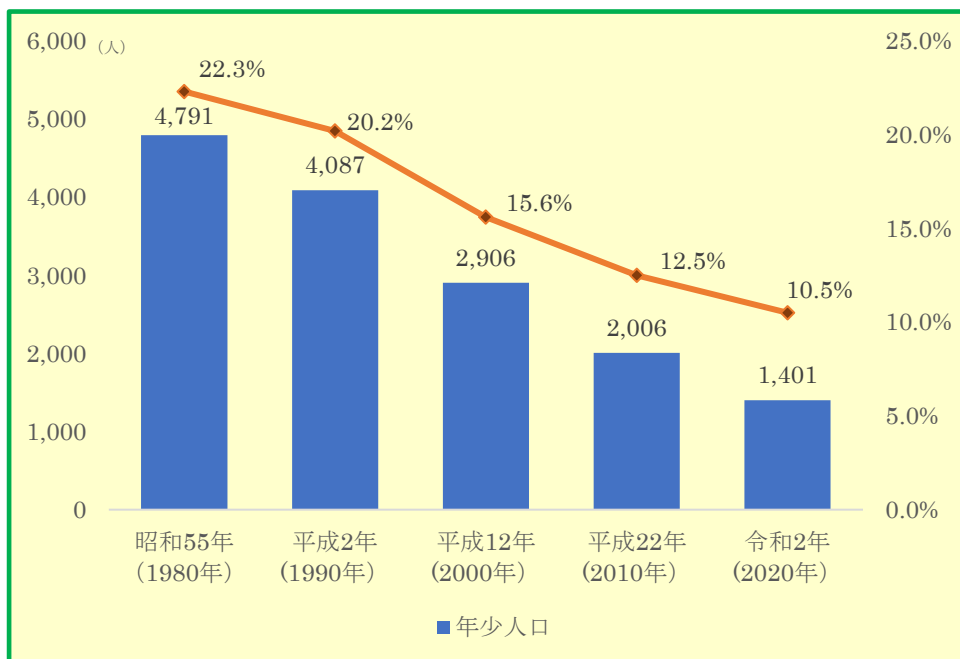
本町の総人口は令和2年の国勢調査によると13,318人で、ここ40年間減少傾向にあります。人口構成は、14歳以下の年少人口は10.5%（昭和55年比11.8%減）、15歳から64歳までの生産年齢人口は48.4%（同14.7%減）、65歳以上の老年人口は41.0%（同26.3%増）となっています。国立社会保障・人口問題研究所の人口推計（令和5年12月発表）によると、令和12年（2030年）には総人口が10,646人という予測となっており、その時点での人口構成は、14歳以下の年少人口は7.3%、15歳から64歳までの生産年齢人口は44.4%、老年人口は48.3%になると推計しています。仮にこの推計のまま人口減が進んでいけば令和17年（2035年）には総人口が1万人を割り込み、約2人に1人が高齢者となるなど、少子高齢化のさらなる進展が予想されており、学校の部活動のあり方を検討するうえでも少子高齢化を踏まえた施策の展開が求められています。

### ■人口の推移（単位：人）

資料：国勢調査

| 区分       | 昭和55年<br>(1980年) | 平成2年<br>(1990年) | 平成12年<br>(2000年) | 平成22年<br>(2010年) | 令和2年<br>(2020年) |
|----------|------------------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|
| 総人口      | 21,514           | 20,226          | 18,601           | 16,004           | 13,318          |
| 年少人口     | 4,791            | 4,087           | 2,906            | 2,006            | 1,401           |
| (0～14歳)  | 22.3%            | 20.2%           | 15.6%            | 12.5%            | 10.5%           |
| 生産年齢人口   | 13,570           | 12,200          | 10,662           | 8,669            | 6,453           |
| (15～64歳) | 63.1%            | 60.3%           | 57.3%            | 54.2%            | 48.5%           |
| 老年人口     | 3,153            | 3,393           | 4,566            | 5,302            | 5,464           |
| (65歳～)   | 14.7%            | 19.5%           | 27.1%            | 33.1%            | 41.0%           |

※総人口には年齢不詳が含まれているため、年少、生産年齢、老年人口の合計とは一致しない場合があります。



※折れ線グラフは、総人口に対する年少人口の割合です。

## II 部活動に関するアンケート結果

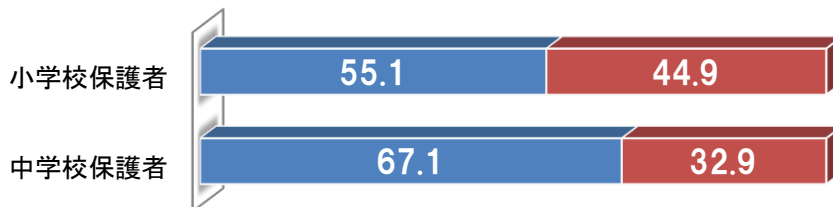
- 1 対 象： 小学校5・6年生、中学生、小・中学校の保護者
- 2 期 間： 令和5年10月12日（木）～10月31日（火）
- 3 方 法： QRコードを読み取って回答
- 4 回答数： 小学校5・6年生…190 中学生…288  
小学校保護者…139 中学校保護者…73

### 対象：保護者

全国的に部活動に関し、休日の地域移行が議論されていることを知っていますか。

■ 知っている ■ 知らない

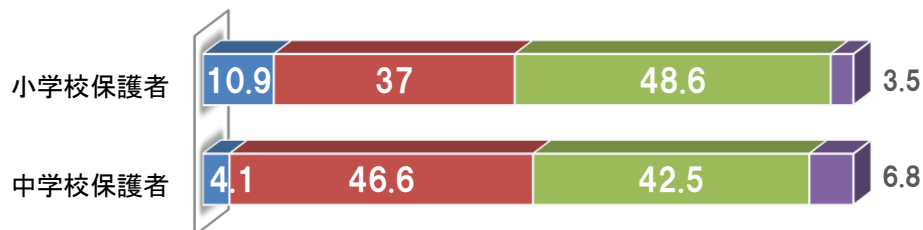
単位：％



部活動が地域移行された場合、指導者やボランティアで協力することが可能ですか。

■ 可能 ■ 不可能 ■ わからない ■ その他

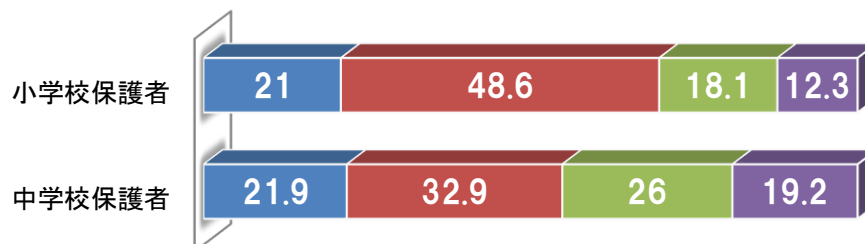
単位：％



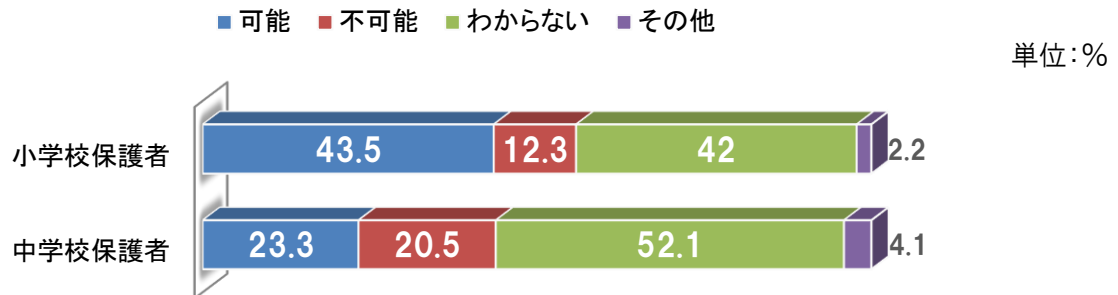
部活動が地域移行された場合、お子さんの送迎は可能ですか。

■ 校区可能 ■ 町内可能 ■ 不可能 ■ その他

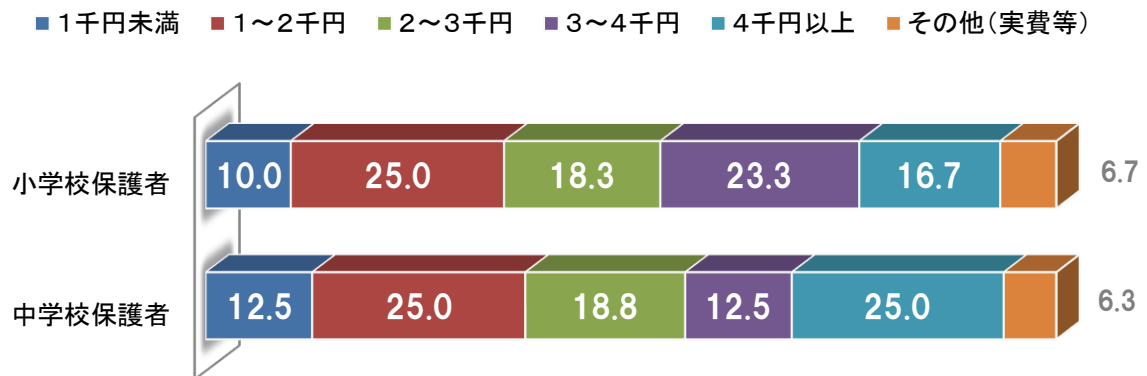
単位：％



部活動が地域移行された場合、運営費等で費用を負担することは可能ですか。

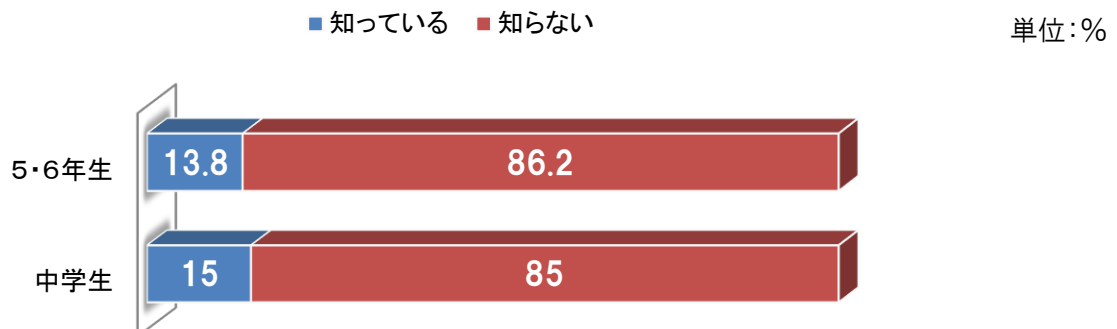


「可能」と答えられた方は、一か月あたりいくらが妥当と考えますか。



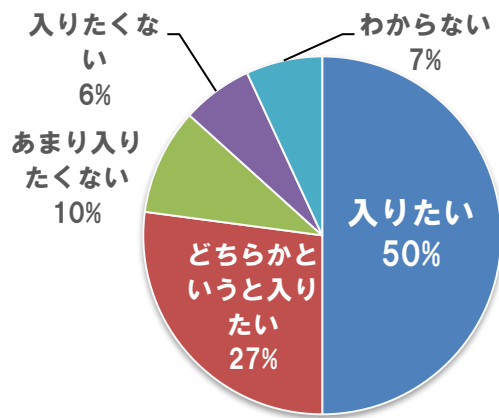
## 対象：児童生徒

全国的に部活動に関し、休日の地域移行が議論されていることを知っていますか。



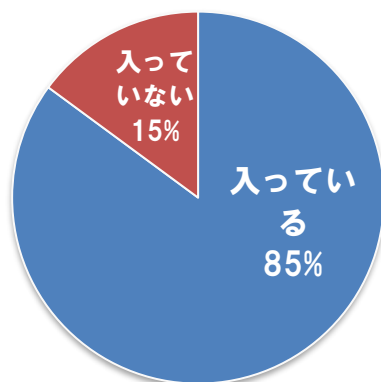
(対象：5・6年生)

あなたは中学校で部活動に入りたいですか。



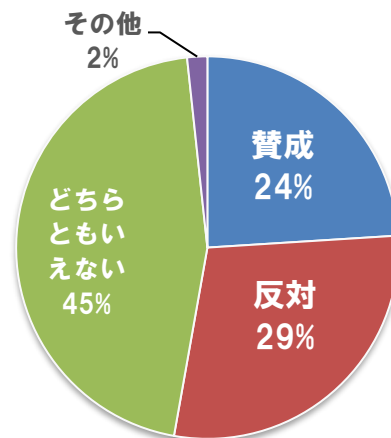
(対象：中学生)

あなたは、部活動に入っていますか。



(対象：中学生)

あなたは、平日と休日の指導者が変わるとすれば、そのことに賛成ですか。



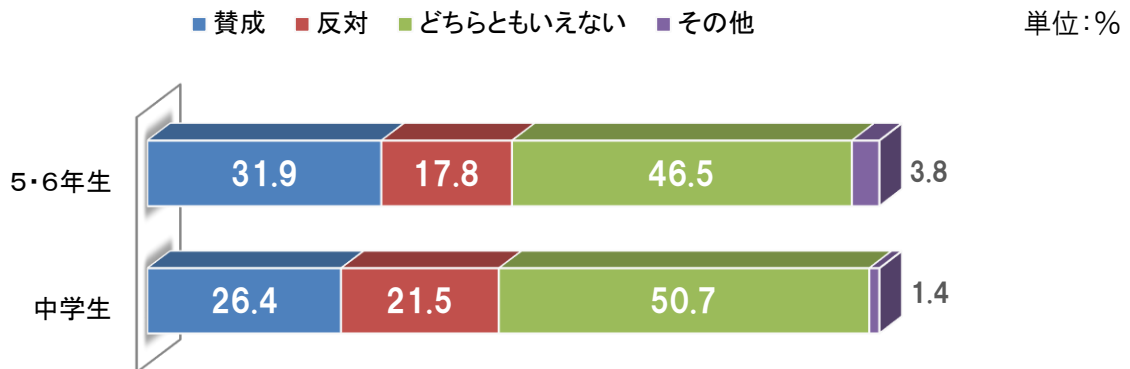
あなたは、休日に部活動をしたいですか。

■ とてもしたい ■ どちらかというとしたい ■ あまりしたくない ■ したくない ■ わからない

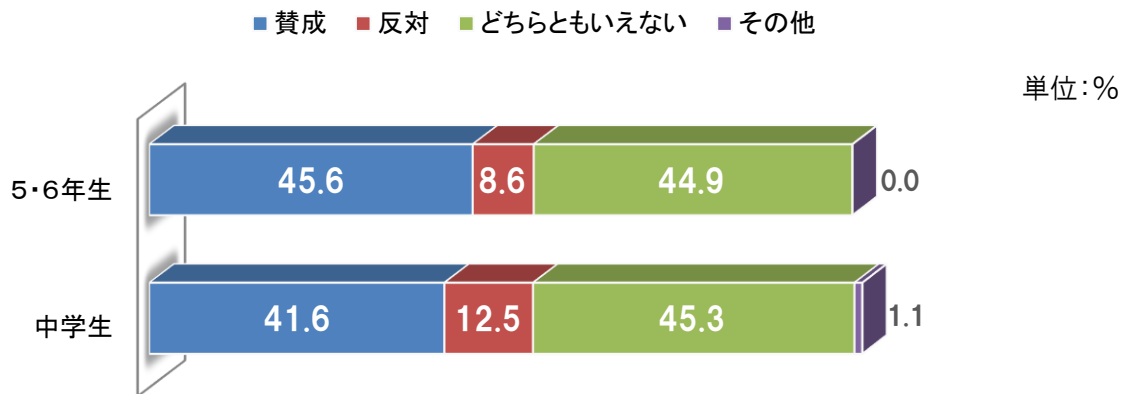
単位：%



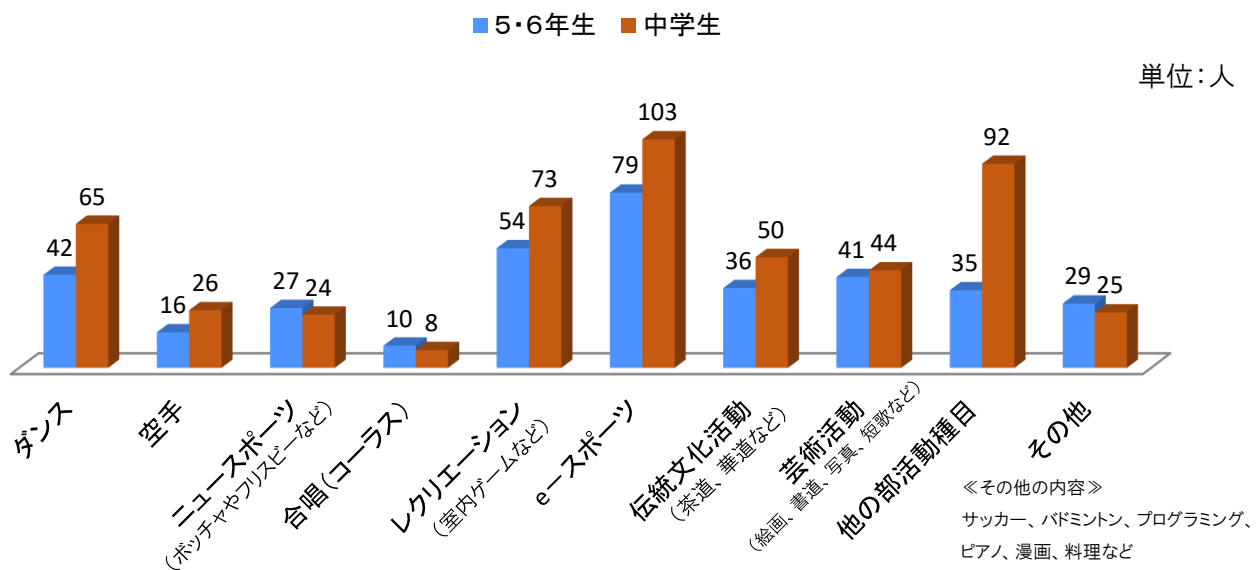
あなたは、平日に参加している部活動とは違う種目に、休日参加できるとなれば賛成ですか。



あなたは、休日に、地域の多世代の人とスポーツをしたり、文化活動をしたりすることに賛成ですか。



あなたが、部活動以外でもやってみたい活動（クラブ活動）はどんな内容ですか（複数回答可）



### 自由記述より抜粋

- ・やりたいこと(部活)さえも自由に選択出来ないのは子どものやる気や努力すること、達成感を奪っていくように思え、不安でしかない。
- ・不満もあるが、子供たちのために授業や部活で頑張って下さっている事に感謝している。早朝から夜遅くまで昼休憩も満足に無い勤務など大変だと思う。厳しい労働環境が改善されることを願う。
- ・部活動の地域移行を早くしてほしい。運動部以外でも地域の文化活動など色々と経験できることは多い。
- ・子供が減ることによって選択肢が減っている。スポーツさせるにも人数が足りずに断念しなければならない等、子供の可能性を狭めている。
- ・クラブ活動やスポーツクラブなどの選択肢が少ない。
- ・部活動なども部員不足で選択肢が少ない。
- ・部活の種類を増やしてほしい。部活に文系をいれてほしい。
- ・今あるスポーツでは我慢している子が多いと感じます。帰宅部が増えると思います。子ども達に、やりたいスポーツや芸術を増やしてあげてほしいです。芸術だと 2 人でもできると思います。

### Ⅲ 部活動のあり方検討委員会の意見等

#### 【主な意見】

- ・部活動は、子どもたちの自己実現や自己有用感を抱くために重要な役割を果たしてきた。
- ・そのため、子どもたちを取り巻くスポーツ・文化芸術活動を持続可能なものとして維持していくことは重要である。
- ・これから議論しようとしている内容は、中学生が中心となるが、高校生も含んだ地域全体の課題として協議した方がよい。指導の視点だけでなく、子どもたち同士が教え合うことも大切である。
- ・保護者負担、自治体軽減策等、幅広く議論する必要がある。
- ・現在、小学校の段階でも、陸上や少年野球など、地域で活動している団体がある。これらの団体と、中学生の活動を関連させる方法もあると思う。
- ・地域指導者はだれでもよい訳ではない。指導者には、子どもの発達段階を踏まえた上で、適切な指導が必要である。
- ・求められるすべてを町内で実施することは難しい。しかし、すべてを町外に任せるのもどうかと思う。
- ・町内で実施する活動は、子どもたちにとって有意義にする必要があるし、ある意味「子育て」の部分もあると思う。地域全体で子どもたちを見守り、地域の人と交流し、地域の子どもとして地域全体で育てていくことは必要。
- ・新温泉町の子どもたちは、能力は高いと思う。駅伝や陸上ではいい成績も残してきた。子どもたちにある程度の目標を持たせ、新温泉町で育てていくことが大切だと思う。すべてを他市町に任せるのはもったいない。この町で子どもたちを伸ばしていく環境を作ることは必要である。
- ・また、気をつけなければならないのは、指導のしすぎである。今まで、熱心な親が子どもに関わりすぎて、早期にその競技をやめていく子どもを多く見てきた。子どもたちを育てるうえで何をめざしていくかを共通理解することは大切である。
- ・指導というだけでなく、中高生が先輩、後輩の立場で教え合うこともやはり大切だと思う。
- ・スポーツ活動や文化芸術活動は、子どもたちを育てる上でとても重要な活動ある。
- ・まずは、アンケートを実施し、現状とニーズを把握した上で議論を進めてもらいたい。



#### 【重視するキーワード】

**「持続可能な活動」、「地域全体で支える」、「適切な指導と高め合い」**

### 今後の新温泉町部活動のあり方の方向性

- ◆子どもたちを取り巻くスポーツ・文化芸術活動は、子どもたちの自己実現や自己有用感を抱くために重要な役割を果たしてきたことを踏まえ、持続可能なものになるよう体制を整える。
- ◆体制を整えるにあたり、新温泉町全体で子どもたちを見守り、地域の人との交流を促し、地域の子どものとして地域全体で育てていく視点を重視する。
- ◆指導にあたっては、子どもの発達段階を踏まえた上で、適切な指導を行う。また、子どもの視点も大切にし、子ども同士が高め合う機会を整える。

## Ⅳ 基本理念と基本方針

新温泉町部活動のあり方検討委員会での協議内容を踏まえ、地域と協働した部活動（スポーツ・芸術文化活動）については、第3期新温泉町教育振興基本計画で示された方向性と重なる面も多いため、基本理念や基本方針は、この計画を参考にする。

また、第2期新温泉町スポーツ推進計画等の計画を参酌しながら総合的、継続的な視点を重視する。

### 【基本理念】

#### 生涯にわたって生き生きと輝く教育

～豊かに 人と人がつながり 新温泉町の明るい未来を切り拓く～

### 【生涯にわたってめざす3つの輝き】

#### (1) ふるさとでの輝き☆

ふるさとを愛し、学び、語りながら、明日の新温泉町を切り拓き、支える人

#### (2) 未来への輝き☆

知・徳・体の調和がとれ、未来に向かって夢や志の実現に粘り強く努力する人

#### (3) つながりを創造する輝き☆

伝統と文化を基盤に、多様な人々をつなぎ合い、豊かな人間関係を築く人

### 基本方針1

(1) 健やかな体や心など子どもたちの生涯にわたる「生きる力」の育成

(2) 校種間や世代を超えた魅力的で、活力があり、多様性のある連携

### 基本方針2

(1) 指導者の育成及び資質・能力の向上

(2) 活動を支える関係機関の組織力の強化、連携、環境整備

### 基本方針3

(1) 人生100年時代を主体的に生きるための活動の充実

(2) 歴史、文化、芸術、スポーツ等に関する地域資産の活用

## V 地域と協働した部活動について

### 1 「地域と協働した部活動準備委員会」の設置等について

中学校において、学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により、生徒のスポーツ・文化芸術活動の環境を町民が一丸となって整える必要がある。その環境は、青少年の成長を支える地域のクラブ活動としての視点を踏まえ、総合的に整備することが大切である。

地域クラブ活動は、学校の教育課程外の活動として、社会教育法上の「社会教育」（主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む）の一環として捉えることができ、また、スポーツ基本法や文化芸術基本法上の「スポーツ」「文化芸術」として位置付けられるものでもある。したがって、地域クラブ活動は、学校と連携し、学校部活動の教育的意義を継承・発展しつつ、スポーツ・文化芸術の振興の観点からも充実を図ることが重要である。

学校部活動で担ってきた生徒のスポーツ・文化芸術の機会を、特に休日においては、地域と協働した新たな地域クラブ活動として、あり方や運営体制、活動内容等について引き続き検討する必要がある。そのため、国が示すスケジュールも参考にしながら、令和6年度～令和7年度の2年間を部活動改革推進期間として「地域と協働した部活動準備委員会」を組織し、より深く協議を進めていくことが重要である。

### 2 今後の取組について

#### (1) 令和6年度の取組（案）

- ・「地域と協働した部活動準備委員会」の設置
- ・部会による具体的懸案事項の検討
- ・説明会等の実施
- ・モデル事業の実施
- ・広報活動の充実

#### (2) 令和7年度の取組（案）

- ・「地域と協働した部活動準備委員会」の継続
- ・部会による具体的懸案事項の検討
- ・説明会等の実施
- ・モデル事業の実施
- ・広報活動の充実
- ・PTA等関係機関の連携強化